

特集

# 徹底解説 東京 2020 対策

今こそ！マスギャザリングへの備え

オリンピック競技大会・パラリンピック競技大会は世界最大の平和の祭典です。前回、1964年の東京大会では、新幹線、首都高速道路、上下水道整備、ごみのない美しい街並み、公共スポーツ施設など、現在にも残る数々の有益な遺産(レガシー)が生み出されました。

残念ながら、2020年3月24日に2020年東京オリンピック・パラリンピック(東京2020)は1年程度の延期が合意されました。2021年の開催後、国、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会(組織委員会)、開催都市である東京都、競技会場が所在する地方公共団体およびホストタウンが全国津々浦々で、大会を契機に地域活性化につなげるべく観光客と文化的交流を行うなどの取り組みを行います。

全国の公衆衛生従事者には、マスギャザリング(一定期間に限られた地域において同一目的で集合した多人数の集団のこと)に伴う感染症の流行、生物テロ、食中毒などの対策に万全を期すことで、大会運営の成功に寄与するとともに、わが国が世界に誇る価値である安全と安心について世界に発信していくことが求められています。

現在、感染が拡大する新型コロナウイルス(COVID-19)への対応についても、収束に向けたわが国の姿を世界に示し、安心・安全に東京2020大会を開催できる状況をつくり出していかなければなりません。本号ではあえて東京2020に向けた感染症対策などの公衆衛生危機管理を取り上げました。各項目の記載の多くは2020年3月中旬までになされたものです。しかし、開催に当たって必ず読者の方々のお役に立つもの揃いとなっています。ぜひ、お手元で保管しておいてください。

本号が、未曾有の危機に対峙する公衆衛生従事者に自信と勇気を与える一助となり、こうした人々の手によって東京2020が世界中の注目の中で安全・安心に開催されることを切に願います。(「公衆衛生」編集委員会)